

⑩ 新中央図書館を構成する各部門とその機能の計画

⑩-1 新中央図書館の部門別の諸機能と規模

施設計画の考え方を踏まえて、中央図書館に必要な機能について「開架系系部門」「資料保存部門」「運営と管理部門」「市民活動支援部門」「ロビー・共用部」に分類整理した。なお、面積割合についてはあくまで目安とし、今後、設計の過程で詳細に検討する。

1. 開架系系部門

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
(1)開架系系部門	<p>・開架図書は開館時 17万冊 + α</p> <p>・西舞鶴駅東口駅前広場に面した玄関ホールから自然に連続して、市民が近づきやすく、誰もが自由に資料を手にとれる開架室を二層構成で配置する。広場レベルの開架を賑わいの広場系開架、上層レベルの開架を静寂系開架として機能環境をしつらえる。</p> <p>・一般資料世界をなるべく広く、資料群のつながりを構造化して並べ、世界を映す30万冊開架が出現する。</p> <p>・開架資料の全てがレファレンス資料という理念で、配架展示する。そこに本と人の居心地をしつらえる。</p> <p>・開架資料全体は開館時17万冊 →将来準開架を含めて27万冊(運用として31万冊)。</p> <p>・開架室はICTを整え、本とPCのハイブリッド環境を目指す。</p> <p>・閲覧席はPC使用とプライバシーや騒音の調整を検討する。</p> <p>□市民に身近で親しみやすい構成の広場系開架室は、視聴覚、子ども、YA、ラーニングコモンズ、暮らしの資料、雑誌などで、一階への配置がイメージできる。広場のにぎわい活気や生活音に包まれた環境になる。</p> <p>□専門的知的な資料を蓄えた構成の静寂系開架室は、一般、参考、地域行政、新聞、主題雑誌、支援系資料で、静かさや落ち着きある資料世界と居場所環境であり、二階への配置がイメージできるだろう。</p>	<p>・市民活動支援部門のスペースと連続的一体的な環境のしつらえ。</p> <p>・500席以上の多様な居場所/座席。</p> <p>・資料展示表現性の高い書架形式。</p> <p>※開架室は、中央部の低中書架(h1.5m程)と周辺部の高密度高書架で構成。地域・行政・参考資料は高書架で収容冊数を満足させ読書席を配置する。開架は一般に40冊/棚で計画し書架の整備がされている。比較参考資料にある開館後の開架実数を観察すると、貸出されつつ開架で運営されている収容実数として、50冊/棚が想像される。開架収容17万冊は、開架運用21万冊に相当と考えられる。また、準開架10万冊を加えて、舞鶴市民の向き合う開架系資料世界は30万冊を超えて、成功事例と同等になる。</p> <p>※開架室床の積載加重は800kg/m²を想定する。</p> <p>※開架系系の利用者が入場する書架間の通路幅員は、バリアフリー法の趣旨に準じて1.2mを確保する。</p> <p>※開架内多目的スペースの配置型も設計段階で検討する。</p>	<p>中計 1750m² (43%)</p>
①一般成人分野	<p>・一般成人開架収容力は開館時に17万冊を想定した。必要収容力を満たす書架と十分な閲覧席を配置する。</p> <p>・暮しに役立つ一般書を1万冊→将来2万冊、7類の芸術とともに広場系開架に配置を想定する。</p> <p>・静寂系開架室には、人文科学、自然科学、社会科学を、特定主題配架とともに、配置を想定する。</p> <p>・高書架7段、中低書架5段(棚上で6段)をゆとりあるよう配置。開架全体の構成が感じられ、圧迫感なく、サービスの目も届き、変化あるスペースを工夫する。</p> <p>・読書席と書架群とを別々の領域とするのではなく、本の中に人がいる、人の中に本がある、という一体感を出すような本の森のイメージ環境をしつらえる。</p> <p>・新刊展示架、企画展示架、特設主題架を織り交ぜる。</p> <p>・外国語文献、多文化サービス、ビジネス支援、医療介護資料など、NDC分類を超えた主題を立て複合的総合的な配架表現が、開架室そこここに展開する。</p> <p>・地図架、旅行パンフレット架、7門大型本架、文庫新書架、CD/DVD架など表現性のある書架を制作する。</p>	<p>・書架(5段と7段、手が届く高さ)</p> <p>・各門にニュース対応の展示板架。</p> <p>・読書席(机、いす)、</p> <p>・一般開架に多様な形式で150席。</p> <p>・地図架/地図台/地図ケース</p> <p>・旅行パンフレット架</p> <p>・ショーケース架</p> <p>・複本収納架</p> <p>・ICT環境</p>	<p>暮らしなどを除いておもに静寂系開架の領域に配置を検討したい</p> <p>770m²</p>
②新聞と雑誌分野	<p>・新聞、雑誌を自由に閲覧する。</p> <p>・ポピュラーな雑誌は広場系開架に気軽に配置する。一般と専門の新聞、主題受けの雑誌は、静寂系開架の大机のある落ち着いた環境で、一定の期間の新聞(1ヶ月)雑誌(半年)のバックナンバーを配架する。</p> <p>・日刊紙、その他専門新聞 20紙 (→将来30紙)雑誌 300タイトル (→将来400タイトル)</p> <p>・開架室全体に目が届き、静寂でくつろげるところ。</p> <p>・新聞、雑誌が乱雑にならないよう、閲覧席、新聞架、雑誌架の配置、出入り通行動線の離隔を考慮する。</p> <p>・専門系雑誌は主題配架を方針として、バックナンバーを含め開架の主題別に混配すると良い。(岡山市方式)</p>	<p>・当日新聞差し、当月新聞架</p> <p>・雑誌架(バックナンバー12冊/タイトル)</p> <p>・閲覧席(机いす席)20(ソファ)20</p> <p>・新聞記事データベース等ICT環境</p> <p>・新聞を広げる傾斜机、くつろぎソファ席も必要。</p>	<p>静寂系開架の領域に配置を検討したい</p> <p>187m²</p>
			(740m ² +30m ²)

⑩ 新中央図書館を構成する各部門とその機能の計画

⑩-1 新中央図書館の部門別の諸機能と規模

1. 開架系系部門

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
③視聴覚分野 資料と視聴席	<p>・音楽や映像メディアを貸出し、鑑賞席でも視聴する。</p> <p>・広場系開架室の中で、青少年分野に隣接するところ。</p> <p>・多主題であるから誰もが近づきやすい位置を考える。</p> <p>・資料 6000冊(→将来12000冊) LD1000タイトル CD 10000タイトル DVD 2000タイトル</p> <p>・鑑賞席を設けず全館モバイルとするか設計時に検討。</p> <p>・視聴画面が見えないプライバシー配慮された視聴席。また、サービスデスクから注意が届くよう配置する。</p> <p>・歴史など主題別配架しないコミックを、芸術系のメディアとしてここに配架してもよい。</p>	<p>・資料架</p> <p>・視聴席(音楽/映像)についてはPC貸出で全館利用など意見あり。</p> <p>・年配者対応やプライバシー、音など、設計時に検討する。</p>	<p>広場系開架の領域に配置を検討したい</p> <p>80m²</p>
④-1 参考資料分野 レファレンス(調査/研究ベース)	<p>・静寂系開架室の一翼で、落ち着きがあり、地域資料や行政資料と一群をなす。相談デスクを配置したい。</p> <p>・主題配架が可能な場合は一般開架内での混配も検討。</p> <p>・参考資料 5000冊(→将来10000冊)</p> <p>(辞書・事典類を中心に、インターネット環境、データベースPC)</p> <p>・書架から必要資料を取り調査研究に閲覧席利用する。</p> <p>・地図をひろげられる4人テーブル席2台を配置する。</p> <p>・個人やグループのための小研究室の配置を検討する。</p> <p>・近くに、ビジネス支援コーナーや医療サービスコーナーや情報コーナーを配置して、関連づけたサービス分野を形成する。</p>	<p>・7段高書架</p> <p>・掲示板</p> <p>・パースライダ用ファイルキャビネット</p> <p>◎課題解決のための多様な座席</p> <p>・研究大机席(4席×2=8席)</p> <p>・研究机席(8席)</p> <p>・個人キャレル席静寂室(10席)</p> <p>・個人研究室(1席×2=2席)</p> <p>・グループ研究室(6席×2=12席)</p> <p>・ICT環境、</p> <p>・OPAC端末席</p>	<p>静寂系開架の領域に配置を検討したい</p> <p>一般成人分野静寂系開架の面積に含める</p>
④-2 地域資料分野	<p>・京都府、広域圏周辺市、などの地域資料を収集し、市民の調査・研究を援助する。</p> <p>・資料 10000冊(→将来12000冊)</p> <p>大型地図(都市計画図/都市形成史図/防災/海図など)</p> <p>・市民と地域の資料を研究し蓄積したい。</p> <p><軍史防衛/引上げ/地域コミュニティ誌・広報紙/チラシ></p> <p>・調査席は参考資料コーナーと共用とする。</p> <p>・郷土資料館の協力を得て歴史資料コーナーを設け、行政と市民と地域の資料展示コーナーを考えたい。(郷土研究資料副本を配架しレファレンスを資料館につなぐ)</p>	<p>・7段高書架</p> <p>・展示ショーケース架</p> <p>・掲示板</p> <p>・大型地図架</p> <p>・パンフ/リーフレット架</p> <p>・パーチャルファイルキャビネット</p> <p>◎課題解決のための多様な座席</p> <p>・研究席(10席、4席はキャレル)</p> <p>・ICT環境</p> <p>・旧メディアのビデオテープ視聴席</p>	<p>静寂系開架の領域に配置を検討したい</p> <p>113m²</p>
④-3 行政資料分野	<p>・京都府、広域圏周辺市などの行政資料、統計資料を収集し市民の調査・研究を援助する。</p> <p>・行政業務や議会活動に奉仕する。</p> <p>・資料 5000冊(→将来10000冊)</p> <p>大型地図(都市計画図/都市形成史図/防災地図など)</p> <p>・調査席は参考資料コーナーと共用とする。</p> <p>・議員活動資料、住民運動資料、地域催事のチラシ等冊子体でなく逸散する資料をストックするシステムを研究し蓄積したい。(市民活動資料アーカイブズ)</p> <p>・「SDG's都市」など政策主題関連資料の収集展示する。</p> <p>・まちづくり(6門)などを総合化し配架する事例もある。</p>	<p>・7段高書架</p> <p>・展示ショーケース架</p> <p>・掲示板</p> <p>・大型地図架</p> <p>・パンフ/リーフレット架</p> <p>・地域調査</p> <p>・ファインダーパースファイルキャビネット</p> <p>・ICT環境</p>	
⑤静粛読書室機能	<p>・開架室の中に集約的な静粛読書室機能があるとよい。室とすべきかコーナーかは設計時に検討する。</p> <p>・中高生の学習席としては、YAラーニングコモンズや交流多目的スペースを学習室に利用する方法もある。</p>	<p>・個人閲覧席、研究席</p> <p>◎ビジネスマンの課題解決研究席</p>	<p>一般成人分野静寂系開架の面積に含める</p>
⑥障がい者サービス分野	<p>・視覚/聴覚/身体等の不自由により図書館利用に障がいのある利用者に、資料と場とサービス機会を準備する。</p> <p>・静寂系開架室内のサービスデスク近くが望ましい。</p> <p>・資料 3000冊(→将来5000冊)と目録。DAISY.25。録音資料、点訳資料、大活字本、音訳ソフトPC</p> <p>・大活字本は高齢者も手に取りやすい一般成人分野へ。</p>	<p>・デスクへの高齢者動線との干渉を回避した誘導ブロックの配置。</p> <p>・館内外の音声案内誘導も検討。</p>	<p>資料の配置は一般成人分野静寂系開架の面積に含める</p>

⑩-1 新中央図書館の部門別の諸機能と規模

1. 開架室系部門

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
-1 朗読奉仕室 -2 録音編集 -3 ボランティア室	<ul style="list-style-type: none"> 対面朗読など利用者への直接サービスの中核になる。資料作成など行政協力員との協働の場を充実させる。 中央館でも朗読奉仕。録音資料点字資料作成を支援。 社会福祉法人「丹後視力障害者福祉センター」など専門機関との協力や、場の提供や活動への連携支援。 対面朗読室は音が外にもれないよう反響しないよう工夫し、戸外の気配が感じられる環境が望ましい。録音編集室は、更に床からの振動にも配慮したい。 点字プリンターは、防音とともに対面朗読や録音に支障がないよう運営と管理部門に設置する。 資料制作以外のボランティアの催事活動や打合わせには、開架部門とは別の市民活動部門に、利用時間が自由なボランティア活動スペースを準備しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 録音編集機器 編集デスク、椅子 朗読用机、椅子 モニター、試聴機器 拡大読書器、資料架、物品架 朗読奉仕室 (5㎡) 録音編集室 (5㎡) CD架 (デジジー) 録音図書(カセット)/録音雑誌架 音声読み上げ対応インターネットPC席 	<p>静寂系開架の領域に配置を検討したい</p> <p>10㎡</p>
⑦子どもサービス分野	<ul style="list-style-type: none"> 幼児から小学生を主な対象とし、本や絵本、紙芝居などの資料貸出と読書の環境を広場系開架室に置く。 誰にも開かれたスペースとして気軽に近づける環境。 児童図書 30000冊→40000冊 複本は資料毎に考慮。(絵本6000冊、紙芝居 300巻、赤ちゃん絵本200冊、ちしき/よみもの24000冊、児童雑誌10、新聞3紙、) 児童書研究の棚コーナーを子ども開架に置く。 当面の図書は基本図書の収集につとめ、徐々に複本率を高めたい。開架の複本かを収納を工夫する。 読書席と書架群とを組み合わせ楽しい雰囲気を作る。 30人のお話室、お話裸足コーナー(20㎡)を付設する。 近くに、水飲み、手洗い、子どもWC/親子WCを設ける。 児童司書サービスデスクとワークスペースを設ける。 布の絵本などの貸出・展示をする。(所蔵100点) 読み聞かせのできるような親子読書席を複数つくる。 おむつや授乳のための小室と給排水設備を準備する。 子ども開架は図書を50冊/棚、絵本を80冊/棚で計画。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども用低書架 4段 絵本架2段(可動だと良い) 絵本コーナーを広場にできる。 紙芝居架2段 赤ちゃん絵本架(裸足コーナー) 布の絵本と展示架 読書席(机、いす)60席程度。学級招待授業ができるオープンな教室を配置する例もある。 児童司書デスクまたはサービスデスク 職員の目の届く子どもトイレ お話室20~25㎡(グループ視聴室/モニター、DVDデッキ) カーペットコーナー30㎡(臨時託児スペースと併用を工夫) 	<p>広場系開架の領域に配置を検討したい</p> <p>330㎡</p>
⑧YA(ヤングアダルト)ティーンズ分野	<ul style="list-style-type: none"> 多様な青少年系資料と交流の場を広場系開架に置く。これまで〈学習室〉利用の対象でしかなかった十代世代を、若いおとなとして、場を設け受け入れる。 彼らの興味ある資料や進学、職業の資料群を用意し、図書館への親しみを増すような工夫をするとともに、音楽や映像資料の場に近く利用を積極的に組合せる。 さらに、若者どうしのコミュニケーションの場、友達づきあいの場、たまり場としての働きも持たせる。 ○青少年向き資料を編成し配架 4000冊→8000冊 一般成人あるいは子どものための分野とも、自然なつながりを持たせ、双方の本にも近づきやすくする。 若者同士で話しあったりする場所を、他のスペースの邪魔にならないよう、ある程度独立した感じの場として、広場系開架室にしつらえる。 YAと子ども分野の中間に、50席程度のラーニングコモンズ(学習席ひろば)を配置する。 1クラス分の学級招待席として硝子張りの教室的なしつらえも考えられる。市民活動支援区域とは違い、資料が近くにある魅力を場としてしつらえたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 書架(8000冊収容) 検索席(机、いす)5席 グループ室 ICT環境 コミュニケーションボード 交流掲示板 読書席(机、いす)50席 1クラス分の学級招待席 ラーニングコモンズ(学習席) ※ラーニングコモンズのICT設備の装備など、場の構成は設計段階で協議する。 	<p>広場系開架の領域に配置を検討したい</p> <p>190㎡</p>

⑩-1 新中央図書館の部門別の諸機能と規模

1. 開架室系部門

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
⑨情報コーナー資料検索サービス	<ul style="list-style-type: none"> データベース、蔵書目録(OPAC)、電子ジャーナルやインターネット、利用者のコンピュータによる資料検索のスペース。機器配置は設計時に協議。 ビジネス支援コーナーの近くに配置する。 データベース利用上、参考図書近くに配置する。 サービスデスクから目の届くところ(利用援助) インターネット用(利用時間の制限などを検討) 書架間にも数台を設置する。(蔵書検索など) 	<ul style="list-style-type: none"> 広場系、静寂系開架の双方に 机：立ち机型、座り机型、 蔵書目録端末 2台程度×2707 無線LAN設備(機器端末数は設計段階に併行して検討決定) インターネット端末は10台程度を参考資料コーナーや開架各所に配置 データベース 8種程度、参考資料の近くに配置。 <p>※機器台数は設計段階で協議する。</p>	<p>静寂系開架の領域に配置を検討したい</p> <p>30㎡</p>
⑩(自動返却)自動貸出コーナー	<ul style="list-style-type: none"> 自動返却仕分けシステムの導入は設計時に確定する。(返却口を設け、背後に返却作業室10㎡<自動返却仕分機を置ける広さ>整理機、再読取り機、ブックトラックを配置する。)機器導入費と人件費圧縮の費用対効果で検討する。 出入口外のブックポストと停車スペースを配置する。 開架室出入口近く自動貸出機 3台程度二箇所配置。 	<ul style="list-style-type: none"> 貸出：広場+静寂系、3台×2箇所(返却：広場系1箇所、ポスト式) 自動貸出機、返却機(専門工事) 返却用ブックトラック、数台(返本室(10㎡程度)、仕分機有無) <p>※機器台数は設計段階で協議する。</p>	<p>40㎡</p>
⑪予約本取置きコーナー	<ul style="list-style-type: none"> 予約本取り置き書架で囲まれたコーナーを設け、専用ゲート、自動貸出機を置く。(休館日や夜間も使える安城市図書館の事例参照) 開架部門が閉鎖の時も、外部/共用部から入れる。 当面3000冊程度の書架を用意する。 自動貸出機をコーナー入口に配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 広場系開架各一箇所 6段書架15連、3000冊対応。 感知ゲート 自動貸出機/机 予約照会機 <p>※機器台数は設計段階で協議する。</p>	<p>40㎡</p>
⑫開架室内サービスデスク周り	<ul style="list-style-type: none"> 総合案内、登録受付、自動貸出補助、リクエスト受付、読書案内などの接遇を行う利用者側スペース。動線を妨げない順番待ちの溜まりスペースが必要。 レファレンス(調査研究・地域資料の利用のための援助、情報検索援助を含めて)を行うサービスデスクと利用者の設備やスペース。利用者席背後に通行動線が近寄ることなくプライバシーの守れる配置とする。 位置は出入口に十分注意を向けられるところにする。 デスク配置は利用者に威圧感を与えないようにし、入口から真正面の向きにしない。落ち着いた環境にしつらえる。 近年は、こどもデスク、相談デスクはH70cm程度で、椅子対応とするが、貸出返却のサーキュレーションデスクはH85cm程度で、職員も立った対応とする形式(利用者と同じ目の高さ)も多くなっている。 利用者にわかりやすい案内サインを設置する。 職員が出入りしやすいよう、いくつか区切られるように工夫する。 デスクバックのしつらえは運営管理部門に記載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○サービスデスクの数と機能 ◎総合サービスデスク × 3箇所(返却×1・貸し出し×2)(立ち机型、車いす対応等検討)(案内、クイックレファレンス、登録、) ◎レファレンスデスク×1箇所 ◎子どもデスク × 1箇所 手荷物置棚をデスク客側に設ける 記載台 	<p>40㎡</p>
⑬野外読書と自由なテラス	<ul style="list-style-type: none"> 2階開架室に冬期に有用なサンルーム型テラス読書席(フリースペース)を設けることも考えられる。 資料持出感知ゲートの内側管理区域として配置する。 飲食やおしゃべりなどにも対応利用できる。 福島県南相馬図書館の事例：中間季は外気に開放。冬季や寒冷期には、深夜電力蓄熱型床暖房のあるサンルームとしての読書テラス利用で人気がある。飲食、おしゃべりが許容されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 屋外用テーブル、椅子 	<p>開架部門面積としては外部なので0㎡。建築基準法上では硝子底下は参入される。</p>

⑩-1 新中央図書館の部門別の諸機能と規模

2. 準開架系部門 3. 資料保存部門 4. 運営と管理部門

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
(2) 準開架系部門	・開架系の居室型集約的公開書庫として当初10万冊(東西現図書館開架の50%想定) 順次開架書庫に移動する。		中計 540㎡ (13%)
① 準開架公開書庫	・開架への配架から5年程度経て利用回転率が落ちた資料、全集系の動き少ない資料、雑誌のバックナンバー、を集約的公開書庫的に配置する。(例、伊万里、君津) ・収容数は当初10万冊、居室環境のしつらえとする。 ・防火区画、調温湿環境、排煙窓付き、書架間通路1.2m。地震転倒防止に留意した7段書架を想定する。 ・閲覧用個人キャレルを配置しても良い。(例、君津) ※開架室床の積載加重は800kg/㎡を想定する。	・固定書架(D45、7段) 耐震固定 ・スチール性ローコストBS型書架想定 ・個人キャレル席・研究15席	540㎡
(3) 資料保存部門	・閉架書庫収容冊数は当初10万冊(将来必要な時期に積層書庫上層書架増設で20万冊を可能にしたい。)		中計 260㎡ (6%)
① 閉架書庫	・サービスデスクや作業室から動線が明快で近い位置。図書、新聞・雑誌、地域資料、行政資料等の資料を保存。 ・防火区画、熱負荷や直射日光対策、温度湿度調整(温度17~25℃、湿度50~60%)、防虫など環境計画に留意。 ・収容冊数は当初10万冊、将来の増設を念頭に置く。 ・下層固定架、上層に一部可動集密架を想定する。 ※積層書庫を受ける床の積載加重は1t/㎡を想定する。 書架スパン1.8m、書架間通路0.9mを想定する。 ・書庫内の検索、曝書、整理等の人の作業環境としても健康的であり機能的であるようにしつらえる。 ・温湿度管理の壁仕様を持つ特別収蔵庫12㎡程を検討。(和書、漢籍、日本画、軸、寄託貴重書の保管1000冊程度)	・固定書架と可動集密書架 作業台 ブックトラック ・奥行60cm物品架(新開現物合本用)	260㎡
(4) 運営と管理部門	運営管理の②③④は音/空調/防塵は区画しつつ視覚的には一体に連続する。		中計 470㎡ (12%)
① サービスデスクとワークスペース	・開架室各層にサービス、相談デスクを配置する。 ・デスクの裏方が、サービス部門担当者ワークスペースとなり、予約や督促などの裏方作業をしつつ、デスク人員の応援がすぐできるようにし、効率的人員配置としたい。	・車椅子も使える裏方エレベーター、階段 ・作業机、椅子、書架	開架部門面積に含める (30㎡)
② 地域奉仕分野 <BM車庫>> <BM書庫>> <配本ヤード>	・地域図書館、幼保園、学校図書館、団体・施設への貸出奉仕。底下の配本車スペースや閉架書庫に近接。 ・地域奉仕書庫5万冊と配本コンテナヤードを備える。(7段複式高書架@1.35m、45冊/棚、ブックトラック置場) ・団体貸出本の入れ替え作業、貸出図書の修理を行う。 ・外来者との打ち合わせコーナー(共用でよい) ・底下作業照度に留意。倉庫、洗車水栓、ゴミ置場、	・作業台、机、いす、洗面台、 ・地域奉仕書庫4万冊(100㎡程度) ・掲示板、白板、お話し道具置場、 ・サービスエリア毎の書棚とコンテナ置場、 PC端末、作業室(40㎡程度) ・BM車庫1台+配本車2台車庫 用具庫(80㎡程度)	220㎡
③ 資料構築分野	・図書資料の選書・受入・整理・発注作業を行う。 ・複数の共用小会議室があれば施設見計らいに使う。 ・荷解き配送室：搬入に便利な位置、段ボール置場を。 ・選書・受入・整理室：資料情報収集と選択、選書会議、自館装備・地域資料検収・分類目録装備、落ち着いた作業。 ・学校図書館とも選書協働。7m幅の扉、広い通路必要。 ・市民共用出来る位置に印刷・製本室：防音、合本修理。 ・防音に配慮した点字プリンターコーナー	・閉架書庫に近く整理書架と作業台。 ・高書架3千冊、作業台、物品架、物置、換気設備、作業台、ハンダ架、選書個席、書類キャネット、PC端末、収納架、 ・複写機、軽印刷機、裁断機、簡易製本機、 展示用印刷機、作業台、点字プリンター 荷解き(10㎡) 選書整理(40㎡) サーバ室(10㎡) 印刷製本(20㎡)	80㎡
④ 企画運営分野	・事業企画、庶務、経理、施設管理、外来者対応を行う。 ・②③分野作業スペースと視覚的連続。④は7m幅の扉、 ・館長席や応接席も置く。複数小会議室を市民と共用。 ・市民グループやボランティアとの接点の諸室を並置。 ・企画や庶務担当など常時在籍業務のスタッフ以外は、人数分の固定机を配置せず共用ワークデスクを置く。 個人に可動の鍵付きサトウキャネットを支給し事務室集約。	・共用の小会議と打合わせ室 ・書類棚 ファイルキャネット 物品棚 ・事務机席を 席、大作業机、 個人支給袖机、コピー機、掲示板 事務室/応接/作業室(90㎡)	
⑤ スタッフ諸室	・スタッフラウンジ：職員休息、食事や小会議に利用。 緊急救護スペースは職員や利用者が横になれる。 ・スタッフラウンジには職員研修や情報交換の為の書棚を置く。 ・職員ロッカー室：男女比を変えられて洗面台を設置。 ・通用口に近く、採光換気があり外気のスタッフテラスもあるとよい。職員用トイレをエバーサル仕様で配置する。	・テーブル椅子席・ミキシンと冷蔵庫 ・救護：畳スペースか簡易ベッド ・男女別ロッカー室、洗面台、トイレ 救護/スタッフ/水回り(70㎡)	170㎡
⑥ 派遣職員控室	・施設管理、清掃の派遣職員が常駐し休息に利用する。 ・通用口に近く、居住性がよくワークテラスが欲しい。 機械警備の主装置を置く。清掃具、消耗品収納庫。	・テーブル、手洗台、ロッカー ・用具収納庫 (10㎡程度)	

⑩-1 新中央図書館の部門別の諸機能と規模

5. 学習・創作活動支援部門 6. エントランス等共用部 7. 市民活動支援部門

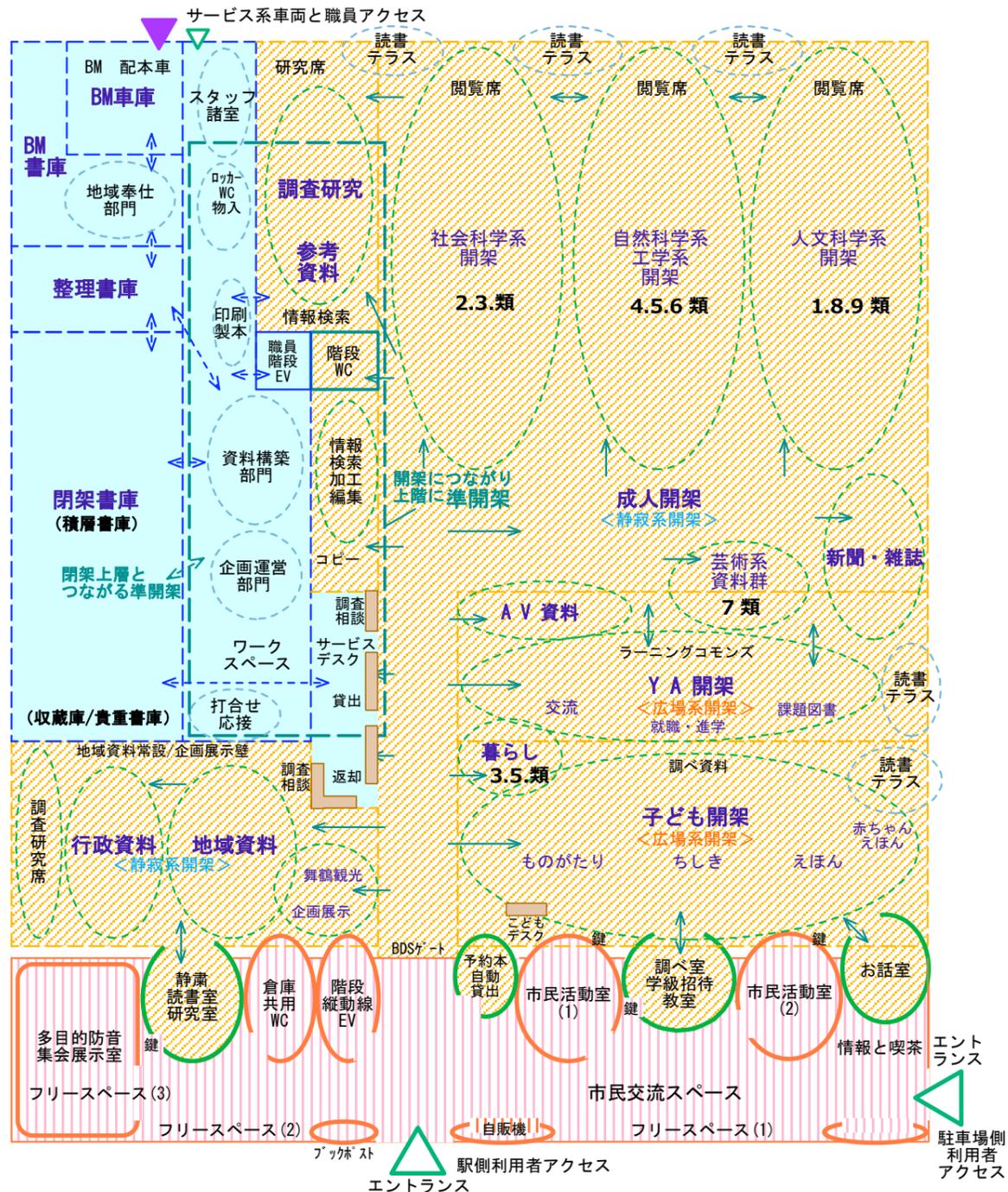
部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
(5) 学習・創作活動支援部門			中計 120㎡ (3%)
① 市民活動室(1)(2)	・図書館利用に関連して市民や市民グループの活動を支援する諸室。研究会/読書会/講座/懇談会/応接に。 ・机と椅子の配置を変えて30席ほどの会合ができる。 ・活動室へのアプローチ環境となるフリースペースとは、硝子間仕切りなど透過性と一体感をしつらえる。 ・60㎡程度を外気に面して2室。	・中教室程度の広さで、2室 ・3人机と椅子×15セット×2室 ・掲示板、ホワイトボード ・映写スクリーン/プロジェクター	60㎡×2 120㎡
(6) エントランス/廊下/トイレ/共用部			中計 560㎡ (14%)
① エントランス情報+くつろぎスペース	・施設全体の構成がエントランス空間から感じられる。 ・共用部からブックコレクションの管理下の平面計画とする。 ・情報案内サイン、支援機器配置スペースを考慮する。	・傘立て、車イス、ベビーカート ブックカートの収納スペース ・ブックポスト・コイン式ロッカー	導入廻り環境面積で算出 80㎡
② 共用スペース	・廊下、EV階段、トイレ、給湯、倉庫を機能的に配置する。 ・視聴覚室など専用空調室など必要に対応する。 ・屋上に室外設備機器配置スペースを配置する。	・開架部門の閉鎖時間に市民活動支援スペースを使える工夫必要	共用部 12% 480㎡
③ 利用者のアクセス支援環境	・障がい者のための底下アプローチと駐車場2台。 ・一般駐車138台、バイク駐車30台の配置。 ・業務用駐車、底下で積卸しする配本車スペース。 ・駐輪場は2カ所に自転車140台配置。 ・将来的な駐車上増設の可能性を検討しておく。 ・返本ブックポスト配置と車動線を検討しておく。	・駐車場マーキング、車止め。 ・機械式駐輪設備と平土間止め ・コイン管理方式等検討	外部環境として 0㎡ 駐輪場上屋など別途建築基準法床面積が発生。
(7) 市民活動支援/集会展示部門	・「図書館ひろば論」にあたる図書館から派生する集会和展示機能の環境。 ・「市民活動支援」「包摂社会支援」から求められる自由な出会いの環境。		中計 300㎡ (8%)
① フリースペース	・玄関ホールと連続して判りやすく行きやすく見える。 ・開架と一体的に、BDS管理区域内に配置してもよい。 ・部屋として区切らず開かれたスペースとし、広場系開架スペースとも自然につながるように配置したい。 ・夏休みや開架閉鎖時間帯にも利用できればなおよい。 ・開放的な講座、講習、会議、研修その他に利用する。 ・机椅子コーナーをしつらえる。ラーニングコモンズ、大テーブルで50席程度の配置をイメージする。 ・友人と待ち合わせ、節度ある飲食が可能なスペース。	・スタッピングチェアと台車 ・8人机と椅子	
多様な利用に対応する環境			
「ラーニングコモンズ」			
「展示ギャラリー」			
「コーナー作り」			
「溜まり場」	・玄関ホールに近いコーナーとして各種の展示を行う。 ・図書館企画の絵画、写真、ポスター等の展示、図書やそれに関連する展示、住民の地域研究展示ができる。 ・可動展示壁で展示壁長50m程と展示コーナー囲いが作れるとよい。 ・展示、掲示板可動壁の収納倉庫を設ける。	・可動展示壁と固定展示壁面。 ・スポット照明 ・可動展示ケース ・可動展示壁の収納庫。	300㎡
② カフェ「くつろぎ席」	・敷地外周の高木に囲まれた緑を感じる喫茶コーナー。 ・手洗い、自販機、を配置する。 ・1階でも2階でもよい。	・テーブルとスタッピングチェア フリースペースと共用 ・手洗い ・自動販売機	
③ 多目的防音室スペース	・図書館多目的室の典型をふまえて機能パターンを配置。 ※図書館活動に関わらない借室の利用は有料化と考える。 ・平土間で机椅子で50席の配置ができる。講座、学習室。 ・平土間で創作催事、親子参加の拡大お話し会、学級招待 ・可動傾斜観覧席で200席程度の講演会、映画会、催事。 ・多目的室へのアプローチ環境のフリースペースとは、透過性間仕切り開放して一体の利用も可能とする。 ・舞台無し。視聴覚設備。人形劇や影絵装置、 ・専用の空調機械室、机椅子の収納倉庫。	・150㎡程度の平戸間。 ・3人机と椅子×16セット/50席。 ・スタッピング椅子のみの配置 100席。 ・可動傾斜観覧席で150席程の収容 ※開架室の中に多目的スペースや教室を配置する形も設計段階で検討する。(小学生学級招待の環境をしつらえる)	
合計	中央図書館計画床面積合計(サッシュ内面積)		4,000㎡ (100%)

⑱ 新中央図書館を構成する各部門とその機能の計画

⑱-2 諸機能と各部門の配置概念図/相関図

- ここでは、各部門のゾーニング、諸室、諸機能の位置関係性と配置を図案化しました。
- 市民と職員それぞれの出入口と各部門への利用者動線の仕組みを、一平面に図案化しました。市民交流部門と図書館部門が管理区画されつつ、複数階の建築構成になることがイメージできます。これら複数階は、バリアフリーでエレベーターや階段で結ばれます。
 - 複数階に渡る準開架、閉架書庫、運営諸室は、エレベーターと階段の縦動線につながり、運営管理部門なども含めて、水平移動が短いことが望まれます。また、サービスデスクから、利用者の安全や緊急事態が把握できる位置関係が検討されることになります。
 - 上記に例示した図書館利用や管理運営上の区画や動線処理をふまえて、本施設計画や一覧表で示された収容冊数や座席や各調度が納まるものが、設計案の必要条件です。

※BDSゲート：不正持出し防止システムのゲート



□各場と機能の相関図
 ・複数階に構成される建築の場の各機能の関係を一面的概念図案で示した。
 ・準開架については、上階に重なる想定して破線で図示している。
 ・市民交流系諸室は、開架と交流部門の両側に出入口を設け施設管理も考えられる。
 ・図書館利用領域の閉館時にも市民交流部門の利用が可能なゾーニングを表現している。

⑱ 新中央図書館を構成する各部門とその機能の計画

⑱-3 同規模自治体の中央図書館の施設規模比較

人口規模が類似する図書館政策先進自治体の運営する中央図書館の規模を比較してみます。財政指数、年間総貸出冊数、貸出密度、開架冊数規模を併記しています。

日本の図書館2020は2021令和2年秋に日本図書館協会から出版された最新の統計書です。舞鶴市と同じ、人口6万人以上10万人未満の432都市の図書館政策と状況を俯瞰します。年間総貸出数が50万冊を超えるのは42館ですが、これとサービス市域が舞鶴市のように広く近年整備された中央図書館の参考例を、以下に8館を例示比較しています。年間貸出し総数が120万冊超えをトップに順に並べ、財政指数も併記しました。

舞鶴市の基本計画(3700㎡+300㎡案)と現況数値を比較してゆきます。(令和2年)

図書館名	人口(万人) 〈財政指数〉	総貸出冊数 (万冊)	貸出密度 (冊/人・年)	開架冊数 (図書のみ/万冊)	中央館面積 (㎡)
①茨城県守谷市 守谷中央図書館	6.8万人 <1.00>	120.5万冊	17.7冊/人・年	14.9万冊	3,523㎡
②滋賀県守山市 守山市立図書館	8.3万人 <0.86>	100.1万冊	12.1冊/人・年	20.7万冊	4,169㎡
③福岡県福津市 福津市立図書館 総合文化センター	6.5万人 <0.57>	70.2万冊	10.8冊/人・年	10.1万冊 5.1万冊	2,761㎡ 1,325㎡ 計:4,086㎡
④長野県塩尻市 塩尻市立図書館 (えんぼーく市民交流センター)	6.7万人 <0.66>	66.2万冊	9.9冊/人・年	20.1万冊	集会部分を含む 施設全体面積 11,890㎡ 図書館面積 3,286㎡
⑤千葉県君津市 君津市立中央図書館	8.5万人 <1.02>	63.8万冊	7.5冊/人・年	開架:22.5万冊 準開架:16.0万冊 38.5万冊	4,896㎡
⑥愛知県みよし市 みよし市立中央図書館	6.1万人 <1.50>	66.1万冊	10.8冊/人・年	27.7万冊	3,807㎡
⑦愛知県田原市 田原市中央図書館	6.3万人 <1.09>	56.7万冊	9.0冊/人・年	31.3万冊	3,972㎡
⑧福島県南相馬市 南相馬市立中央図書館 (市民情報交流センター)	東日本大震災で 人口減少と貸出 数伸長が停滞 6.1万人 <0.67>	36.8万冊	6.0冊/人・年	開架:18.0万冊 準開架:10.6万冊 28.6万冊	情報交流を含む 施設全体面積 5,398㎡ 図書館面積 3,546㎡
将来の 舞鶴市中央図書館	7.8万人 <0.70>	78.0万冊	10.0冊/人・年	計画 開架:17.0万冊 準開架:10.0万冊 27.0万冊	4,000㎡ 図書館 3700㎡ 市民交流 300㎡
現況の 舞鶴市立東図書館 舞鶴市立西図書館	8.3万人 <0.70>	32.7万冊	3.7冊/人・年	8.4万冊 7.3万冊 計:15.7万冊	1,014㎡ 919㎡ 計:1,933㎡

出典：日本の図書館2020(R2)

⑩ 新中央図書館を構成する各部門とその機能の計画

⑩-4 新中央図書館施設の計画でめざすもの

新中央図書館の候補地は西舞鶴駅東口隣接地、都市計画法用途は第二種住居地域で建蔽率60%、容積率200%です。舞鶴市玄関駅前顔となり、穏やかな周辺住宅地環境に調和した建築の表情が求められています。

整備にあたり建築のあり方について、以下5つの方針を設計段階での検討要素として申し送ります。

□環境・みどりにやさしい建築。

自然エネルギーを活用し、省エネルギーな建築環境をめざす。

- 舞鶴市玄関駅の顔となる環境づくりから、緑や景観に配慮し、敷地や施設の緑化、低層建築化、駅前広場との連続性など、緑に溶け込む環境型建築を目指します。
- 舞鶴市施策であるSDGs持続可能な開発目標に基づき、建築・環境計画を行います。照明・空調設備等において省エネルギー対策に取組み、エネルギー需要の低減を図ると共に、立地状況等を踏まえた再生可能エネルギー・未利用エネルギーの導入、地域伏流水の涵養などについても、設計段階で検討を行います。

□バリアフリーでユニバーサルデザインが行き渡る建築をめざす。

- 近年バリアフリー法制定により、京都府下でも、「建築物バリアフリー条例」や「福祉のまちづくり条例」が施行されています。これらの趣旨や基準にもとづいて、円滑で安全な移動が担保できる建築をめざします。
- 舞鶴地域の気候的な特色である、降雪や積雪、浦西と呼ばれる突発的な強い風雨、についても、生活を支える施設の工夫の実現が望まれます。
- いかなる状況やハンディキャップを持つ人にとっても、図書館はその生活を支える機関ですから、ユニバーサルデザインが行き渡る施設のしつらえをめざします。

□建築物の耐用性も利用しやすさからも、長寿命な建築をめざす。

- 大勢の市民が永きにわたり利用する公共施設ですから、当然の条件として建築は堅牢で、災害に強く、時間と共に魅力を増すものでありたい。これらは、建築を構成する材料の耐候性や、建築工事での施工の堅実性、適正な維持管理しやすさなど物理的な要件が第一に達成されて、長寿命な建築に近づくことによります。
- 利用しやすく、多様な用途にも不満を持たれないことが長寿命の条件となります。
- さらに、この建築が市民利用者の共感や愛情を得るものであるかもその要件になります。施設に足りない要素が生じた時、維持改修か建替えかの判断が建築の寿命を決めることとなります。

□使い方進化に対応できるフレキシビリティのある建築をめざす。

- 図書館基本計画に記された建築の仕様（環境としての質や収容すべき量）が条件となって、無駄のない合目的な施設が設計と事業の目的となり、造られます。
- 多くの図書館が50年を経ず改築されます。この理由は、時代変化の要求に合わないことによります。書庫の満杯化が、表側の開架室や事務室の混乱、本の廃棄を導きもします。米国の図書館で、小さなコーナーで始まったYA部門が、子ども開架と同規模の青少年部門に成熟し拡大した、という事例もあります。部門の大きさも状況や要求で変化していく先例です。
- 図書館にとって、部屋や棚の増築性や可変性を計画で踏まえておくことは、100年先に行く米国の図書館と建築に学んだ日本の図書館建築計画学の骨格でした。

□建設の経済性だけでなくLCCの低減に配慮した建築をめざす。

- 建設時のインシヤルコストの低減については、建築材料や工費の圧縮ばかり強調されると、長寿命性や建築の質との引き替えが起こる要因ともなり、コスト設計のバランスが重要であるといわれます。また、発注分離方式の工夫など建設費低減の試みが各地で行われています。
- 運営段階のランニングコストは、自然エネルギー利用など経費低減の工夫が各地で実践されていて、施設長寿命化のための適正な中長期管理計画の立案と実行も有効となります。
- 図書館施策では歳費の70~75%が人件費であるといわれ、より少人数のコンパクトな運営体制の実現が、総合的なLCCには重要で、施設設計の専門性が問われます。

※設計にあたって検討と対応が求められる法律や条例

(法律)
・省エネ法
(エネルギーの使用の合理化等に関する法律)

(京都府)
・環境を守り育てる条例

(京都府)
・福祉のまちづくり条例

※雪や雨に対する庇廊や雁木が伝統的な建築の工夫として知られる。
※冬季の屋外利用が難しい北欧ではウインターガーデンを備えた図書館もあり、日本でも寒冷地図書館では、床暖ウインターテラスの事例も見られる。

※施設建築の寿命は、100年を目指すと言われながら建替えが早い。維持改修不可能な施設の老朽化より先に、新構造基準の不適合や、収容力や機能に対応出来ない状況が散見される。専門施設では、これらを踏まえた建築計画が重要と言われる所以である。

※建築のフレキシビリティとは、時代が代わり利用要求の変化に対応できる可変性や融通性、収容力を追加できる成長性増築性を差している。しかし、計画無く大きく部屋をつくり可動間仕切りで分割するアイデアは、コスト上昇と利用上の不評が各地での結果である。

※LCC:ライフサイクルコストとは、建設から維持管理、撤去処分に係る建築の総コストで、それぞれの場面でのコスト管理が問われるとされている。

※駅前市民施設として、夜間開館など他の公共施設を超える開館時間は運営コスト増大につながる。運営計画確定がLCC試算に関係する。

※政策経費としてLCCを考えると、コンパクトな運営体制を可能にする、専門的な図書館施設計画は重要になる。

⑩ 新中央図書館を構成する各部門とその機能の計画

◆ 東舞鶴駅・西舞鶴駅の隣接候補地 適正比較 (ふたたび)

□東舞鶴駅、西舞鶴駅の駅近に中央図書館整備の適地を探して

全ての舞鶴市民にとって「専門性が高く資料情報の奥行きが深い中央図書館が欲しい」という要望が広がります。また、福知山市や宮津市の前例を引くまでもなく「行きやすい中心市街地の駅前」などで、車利用や公共交通との連携が担保された配置であるべきです。この視点で、中央図書館が置かれるべき適地を、東舞鶴駅と西舞鶴駅の駅近で探すと、「東舞鶴駅東口の区画整理で生まれた都市公園」と「西舞鶴駅東口JR跡地の市有地」の2つの公有地が候補地として上がり、比較評価をしてみようということになりました。

□東舞鶴駅、西舞鶴駅の駅近中央図書館候補地を比較評価して

ふたつの候補地を比較する視点からは、以下のことが判りました。

- ① 市民利用の利便性、交通移動結節点として、双方に最適地性あり。
- ② 図書館中央館機能/施設配置の融通性として、東候補地はやや窮屈。
- ③ 具体化可能性、市民合意形成からは、東候補地に課題と疑問あり。

市民生活や都市計画の視点からは、都心循環バスの利便性評価や車利用型社会生活を考えると、東西候補地に甲乙を付けがたい。現状図書館の解決すべき課題は、中心市街地と郊外居住地へのサービス格差であり、中央図書館を公共交通結節点や幹線系道路沿いへの配置は、方針に合う。

● 東駅隣接候補地に想像される課題や疑問とは、

- 区画整理で創出した都市施設を施設用地化する手続き、合意形成。(都市公園内に図書館は法的に建築可能だが公園建蔽率では実現不可)
- 現状は地域の有効な広場空地であり、コミュニティの利用が盛ん。(周辺に地域コミュニティが使えるような代替え移転公園環境が無い)

● 西駅隣接候補地に想像される今後の確認事項は、

- 城下町歴史区域としての調査。操車場跡地としての安全確認調査。
- 河川堆積地の支持地盤層、流動化、地下水位、洪水調整基準の確認。

□ 東舞鶴駅/東口の都市公園を候補地と考えた場合

- ・現況都市公園面積：約 4,200㎡
- ・法規制/建築条件：都市公園(都市計画施設)
都市計画用途：商業地域
建蔽率：80% (公園のままの場合12%)
容積率：400%

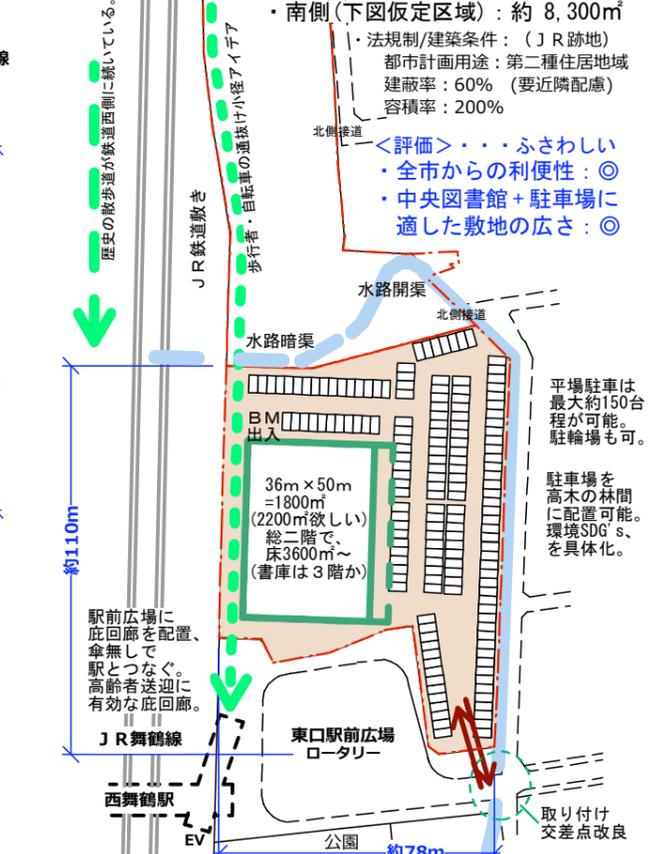
- <評価>・・・ややむずかしい。
・全市からの利便性：◎
・図書館+駐車場には狭い敷地：△
・現公園機能を廃止できるか：？



□ 西舞鶴駅/東口の市有地を候補地と考えた場合 (1.4ha)

- ・外堀(水路)より北側区域：約 5,700㎡
- ・南側(下図仮定区域)：約 8,300㎡
- ・法規制/建築条件：(JR跡地)
都市計画用途：第二種住居地域
建蔽率：60% (要近隣配慮)
容積率：200%

- <評価>・・・ふさわしい
・全市からの利便性：◎
・中央図書館+駐車場に適した敷地の広さ：◎



※図書館への市民の声、要望
令和2年11月市民アンケートでは、1,322人の回答と、386件の自由記述意見があり、図書館サービスや施設統合など充実策、駐車場配慮など、全市民的視点からの意見に、刮目すべきものが多くありました。

※中央図書館の駐車場規模

現代の図書館で駐車駐輪場は重要。例えば、土日曜日の中央図書館に人口の5%が来館するとして、その30%市民1170人が3~5時に来館している状況を想像します。その15%が自家用車と仮定すると、175台程の駐車場が望まれます。近年、同規模図書館開館後に百台駐車場では不足した先例に学びます。駅界限に借地駐車場増設は難しく、駐車待ち道路渋滞回避も必要です。

※中央図書館の建築面積

現代の図書館建築の1階構成は、充分な開架室、全市BM奉仕部門交流域など主機能がワンフロアに(運営職員配置の集約効果もあり)配置されます。隣市宮津市図書館の例でも成人開架は小さめですが、主階は平場の配置で2140㎡程です。(トイレ階段共用部を含め面積)下の検討では建築面積1800㎡程度の敷地検討ですが、1階床2200㎡以上は必要であると考えられます。